



# OBARA REPORT

53<sup>rd</sup>

第53期 第2四半期報告書

2010年10月1日 → 2011年3月31日

証券コード：6877

OBARA CORP.

この報告書に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

本社 〒252-1104 神奈川県綾瀬市大上4-2-37  
経営企画室 TEL: 0467-76-2000

# 新しい技術で、もっと便利な明日へ

Creative technologies contributing to the world

OBARAグループは、抵抗溶接機器と精密研磨装置を主要製品とし、発展する世界経済の中で多様化する顧客ニーズに、蓄積した独自の技術で応えます。抵抗溶接機器は自動車産業、精密研磨装置はエレクトロニクス産業において用いられ、確かな品質とグローバルなネットワークにより、両基幹産業の生産活動を支えています。OBARAグループは、技術の革新を求め続け、新しい「もの作り」を通して社会の発展に貢献したいと考えています。

## 溶接機器関連事業

抵抗溶接機器は、薄い金属を高電流と高加圧で接合させるもので、主に自動車ボディの組立工程において活躍しています。OBARAグループは、溶接装置から消耗品までトータルな製品ラインナップを展開します。日本や欧米のほか、中国など長足の経済成長を見せるアジア地域に拠点網を持ち、各国の自動車産業に製品及びサービスを提供しています。

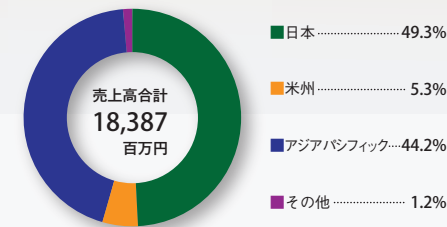
## 平面研磨装置関連事業

精密研磨装置は、エレクトロニクス材料の基板平坦化に多く用いられます。シリコンウェーハなどの基板に、微細加工に不可欠な基準平面を形成します。OBARAグループが培ってきた、研磨加工・装置製造・消耗副資材に対する統合技術力は、先端産業が抱える困難な技術課題に対し、新しいソリューションを提供し続けています。

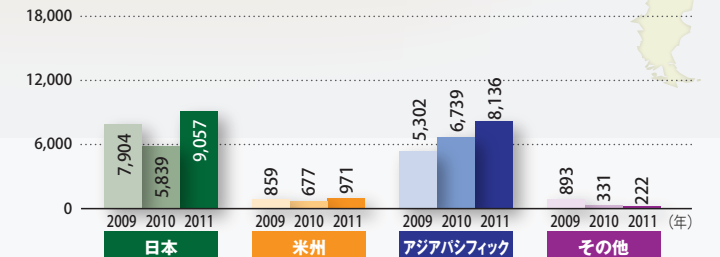


- 支店
- ◆ 関係会社
- ◇ 溶接機器関連事業
- ◇ 平面研磨装置関連事業

所在地別売上高構成比



所在地別売上高推移 (百万円)



(注) 1. グラフは各第2四半期累計のものであります。  
2. 売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。



代表取締役社長

橋田 幸三

## 株主の皆様へ

このたび、東日本大震災により被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々に心よりお悔やみ申し上げます。一日も早い復旧を衷心よりお祈り申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、中国をはじめとするアジア地域の経済成長などに牽引され、堅調に推移しました。

我が国経済につきましては、アジア地域の経済成長などを背景として、企業収益に着実な改善の動きが見られたものの、デフレ経済や円高傾向の継続などに加え、東日本大震災の発生もあり、先行きの見通しについては楽観ができません状況となりました。

当社グループと深く関わる自動車業界では、新興国での自動車販売の増加に伴い、積極的な設備投資が続くとともに、同地域を中心として高水準の自動車生産が行われました。また、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、シリコンウェーハ分野の設備投資が緩やかな回復基調に向かう中、エレクトロニクス素材一般の生産動向には活性化の動きが見られました。

このような状況のもと、当社グループとしましては、各市場動向に応じ、設備品及び消耗品の販売強化に努めるとともに、技術革新や次世代製品など高付加価値製品の開発にも注力してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高163億72百万円(前年同期比39.1%増)、営業利益20億78百万円(前年同期比401.3%増)、経常利益21億51百万円(前年同期比284.4%増)、四半期純利益は、16億34百万円(前年同期は6億57百万円の四半期純損失)となりました。

なお、2011年度の第2四半期末配当金につきましては、1株につき10円とし、本年6月14日を支払開始日とさせていただきます。

通期の見通しにつきましては、溶接機器関連事業及び平面研磨装置関連事業において、日本及びアジア地域での業績が順調に推移していることなどから、当連結会計年度における売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益は、平成23年1月31日に開示しました業績予想を上回る見通しであります。

なお、当連結業績予想は、東日本大震災の影響も含め、当社グループの国内外の事業活動全般に関する検討に基づくものです。

このことから、通期の売上高は315億円(前期比10.7%

## 2011年度第2四半期連結累計期間の業績

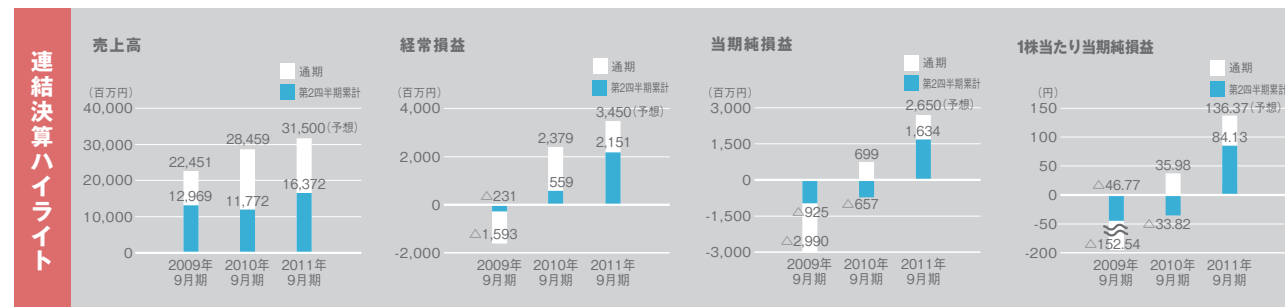
	(単位：百万円)
売上高	16,372 (39.1%)
営業利益	2,078 (401.3%)
経常利益	2,151 (284.4%)
四半期純利益	1,634 ( — )

\*(%表示は対前年同期間増減率)

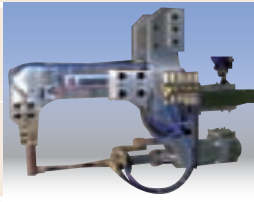
増)、利益面につきましては営業利益33億50百万円(前期比46.0%増)、経常利益34億50百万円(前期比45.0%増)、当期純利益26億50百万円(前期比279.0%増)を予想しております。

OBARAグループは、これからも市場の変化に素早く対応しながら収益の向上を図り、企業価値向上に努めてまいり所存です。

株主の皆様には、倍日のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

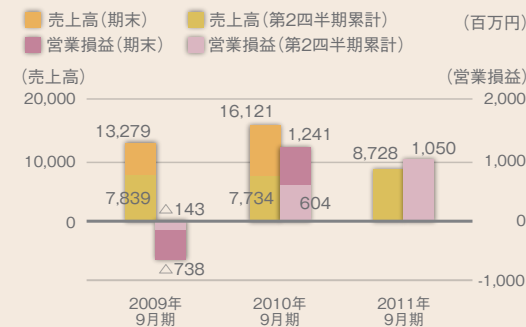


溶接機器関連事業



溶接機器関連事業につきましては、取引先である自動車業界において、日系及び米国系自動車メーカーによるものも含め、新興国での設備投資や生産活動が積極的に行われ、当事業として、設備品及び消耗品の需要拡大への機動的対応に努めたことなどにより、業績は好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は87億28百万円となり、営業利益は10億50百万円となりました。



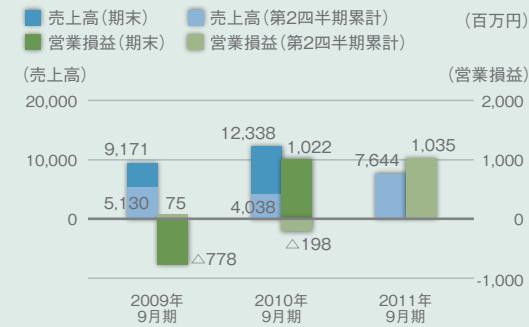
(注)：売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

平面研磨装置関連事業



平面研磨装置関連事業につきましては、取引先であるシリコンウェーハ分野における新規設備が緩やかな回復基調に向かう中、エレクトロニクス素材一般で生産動向に活性化の動きが見られたほか、当事業においてハードディスク分野向け装置などの売上が進捗したことなどにより、業績は好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は76億44百万円、営業利益は10億35百万円となりました。



(注)：売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

会社分割による  
持株会社体制への移行について

当社は、平成23年8月に開催予定の臨時株主総会において承認決議がなされることを条件に、平成23年10月3日を目途に持株会社体制へ移行し、新設分割により当社100%子会社の事業会社を設立し、当社の溶接機器関連事業に関する権利義務を承継させることと致しました。

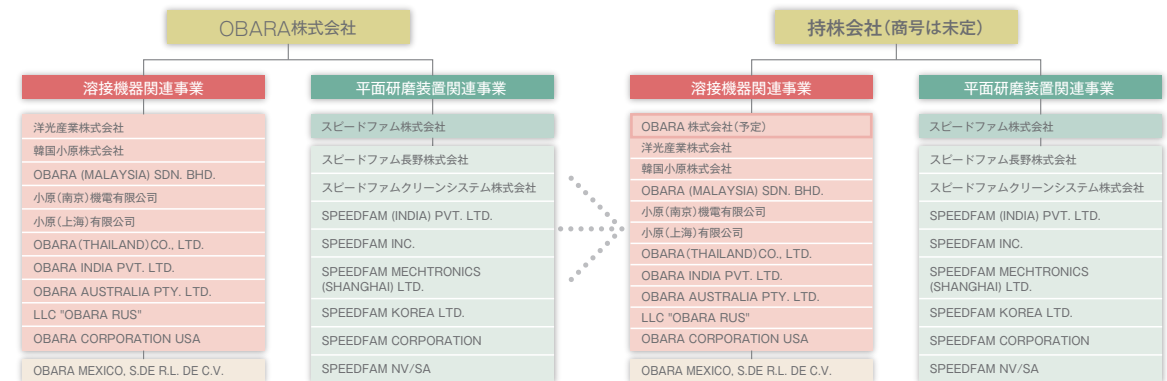
当社は、1958年の設立以降、自動車業界向け抵抗溶接機器の製造販売を行ってまいりました。自動車業界の成長とグローバル化に伴って、当社も業容を拡大するとともに、海外にも積極的に拠点展開を行い、現在、自動車ボディ向け抵抗溶接機器事業では、世界有数の企業規模となっております。

また、2000年8月にはスピードファム株式会社の株式を100%取得して、エレクトロニクス業界向け平面研磨

装置関連事業に本格進出し、エレクトロニクス製品市場の成長とともに、大きな発展を遂げてまいりました。

リーマンショック以降、自動車及びエレクトロニクス業界は、一層のグローバル化、スピード化、差別化、多様化などへの対応が迫られることとなり、大きな変革期を迎えております。これらの事業環境の変化に応え、社業の更なる発展と企業価値の一層の増大に取り組むためには、各事業の採算性や責任体制の明確化を図るとともに、機動的な対応が可能なグループ運営体制が必要不可欠であると判断し、持株会社体制へ移行する方針を決定しました。

当社と致しましては、今後ともグループ経営の強化、経営資源の最適配分に注力して、グループ全体の企業価値向上を図り、株主の皆様のご期待に応えるべく努めてまいり所存です。株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

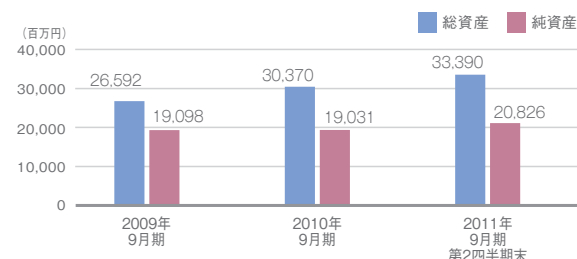


連結貸借対照表(要旨)

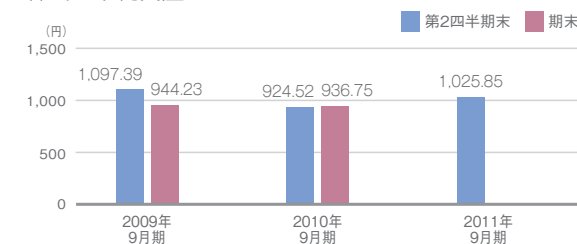
(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (2011年9月30日現在)	前期末 (2010年9月30日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	23,990	20,836
固定資産	9,400	9,533
有形固定資産	7,641	7,805
無形固定資産	269	273
投資その他の資産	1,489	1,455
資産合計	33,390	30,370
<b>負債の部</b>		
流動負債	10,784	9,833
固定負債	1,779	1,505
負債合計	12,564	11,338
<b>純資産の部</b>		
株主資本	21,838	20,398
資本金	1,925	1,925
資本剰余金	2,373	2,373
利益剰余金	18,616	17,176
自己株式	△1,077	△1,077
評価・換算差額等	△1,905	△2,196
少数株主持分	893	829
純資産合計	20,826	19,031
負債純資産合計	33,390	30,370

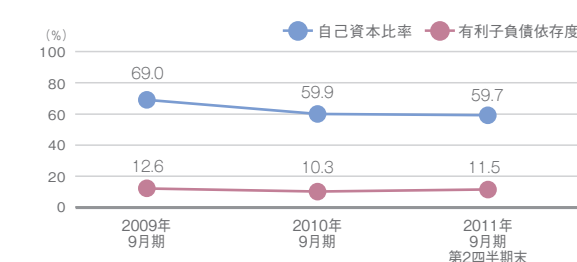
総資産/純資産の推移



1株当たり純資産



自己資本比率/有利子負債依存度の推移



1 資産合計

POINT  
総資産は333億90百万円と、前連結会計年度末に比べて30億20百万円増加しました。現金及び預金が9億43百万円、受取手形及び売掛金が10億28百万円増加したことなどによります。

2 負債・純資産合計

負債は125億64百万円と、前連結会計年度末に比べて12億25百万円増加しました。借入金が7億13百万円、支払手形及び買掛金が1億17百万円増加したことなどによります。純資産は208億26百万円と、前連結会計年度末に比べて17億94百万円増加しました。四半期純利益が16億34百万円増加したことなどによります。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (2010年10月1日から 2011年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (2009年10月1日から 2010年9月30日まで)	前期 (2009年10月1日から 2010年9月30日まで)
売上高	16,372	11,772	28,459
売上原価	11,507	8,591	20,449
売上総利益	4,865	3,180	8,009
販売費及び一般管理費	2,786	2,766	5,715
営業利益	2,078	414	2,294
営業外収益	130	202	264
営業外費用	57	57	180
経常利益	2,151	559	2,379
特別利益	132	—	20
特別損失	69	—	45
税金等調整前 四半期(当期)純利益	2,214	559	2,354
法人税、 住民税及び事業税	301	247	710
法人税等還付税額	—	—	△39
法人税等調整額	200	860	848
少数株主利益	78	108	136
四半期(当期)純利益 (△は損失)	1,634	△657	699

3 営業利益

POINT  
溶接機器関連事業及び平面研磨装置関連事業ともアジア地域での売上が好調だったことに伴う増収効果などにより、営業利益は前年同期比401.3%増の20億78百万円となりました。

4 特別損失

移転補償金1億9百万円(特別利益)、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額69百万円(特別損失)等が発生しました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (2010年10月1日から 2011年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (2009年10月1日から 2010年9月30日まで)	前期 (2009年10月1日から 2010年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	340	596	1,523
投資活動による キャッシュ・フロー	△254	294	△28
財務活動による キャッシュ・フロー	450	△1,070	△586
現金及び現金同等物 に係る換算差額	76	95	△128
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	613	△83	780
現金及び現金同等物の 期首残高	4,086	3,306	3,306
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	4,699	3,222	4,086

5 営業活動によるキャッシュ・フロー

POINT  
営業活動により得られたキャッシュ・フローは3億40百万円となりました。税金等調整前四半期純利益が22億14百万円となった一方、売上債権の増加額が9億12百万円、たな卸資産の増加額が9億75百万円発生したことなどによります。

6 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により支出したキャッシュ・フローは2億54百万円となりました。有形固定資産の売却による収入が41百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入が1億円となった一方、定期預金の純増加額が2億19百万円、有形固定資産の取得による支出が1億62百万円発生したことなどによります。

7 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により得られたキャッシュ・フローは4億50百万円となりました。短期借入金の増加額が7億5百万円となった一方、長期借入金の返済による支出が20百万円、配当金の支払額が1億94百万円、少数株主への配当金の支払額が39百万円発生したことなどによります。

**会社概要** (2011年3月31日現在)

社名	OBARA株式会社
英文名	OBARA CORPORATION
本社所在地	神奈川県綾瀬市大上4-2-37
設立	1958年12月
資本金	1,925,949,120円
主要な事業内容	溶接機器及び平面研磨装置の製造販売等
従業員数	204名(連結1,568名)
ウェブサイト	http://www.obara-g.com/

**役員** (2011年3月31日現在)

代表取締役社長	持田 律三
代表取締役副社長	渡辺 俊明
取締役	小原 康嗣
取締役	春名 真人
取締役	周澤 健
取締役	田中 夏樹
常勤監査役	谷内 博
監査役	大西 倫雄
監査役	村松 建夫

(注) 監査役のうち、大西倫雄及び村松建夫の両氏は、「会社法」第2条第16号に定める社外監査役であります。

**事業所** (2011年3月31日現在)

本社	神奈川県綾瀬市大上4-2-37
山梨工場	山梨県笛吹市境川町藤堂 4151
豊田営業所	愛知県豊田市御幸町3-52-2
宇都宮営業所	栃木県宇都宮市東宿郷5-7-8
大阪営業所	大阪府池田市神田3-11-14
九州営業所	福岡県北九州市小倉南区朽網西1-9-3

**OBARAグループ**

■ 溶接機器関連事業

韓国小原株式会社
小原(南京)機電有限公司
小原(上海)有限公司
OBARA CORPORATION USA
OBARA (THAILAND) CO., LTD.
OBARA (MALAYSIA) SDN. BHD.
OBARA MEXICO,S.DE R.L.DE C.V.
OBARA INDIA PVT LTD.
OBARA AUSTRALIA PTY. LTD.
LLC “OBARA RUS”
洋光産業株式会社

■ 平面研磨装置関連事業

スピードファム株式会社
スピードファムクリーンシステム株式会社
スピードファム長野株式会社
SPEEDFAM INC.
SPEEDFAM MECHTRONICS (SHANGHAI) LTD.
SPEEDFAM KOREA LTD.
SPEEDFAM CORPORATION
SPEEDFAM NV/SA
SPEEDFAM (INDIA) PVT LTD.

**株式状況** (2011年3月31日現在)

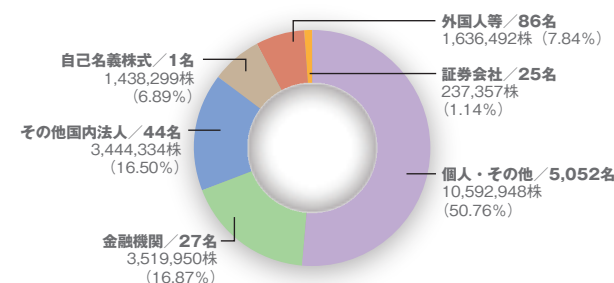
発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式総数	20,869,380株
単元株式数	100株
株主数	5,235名

**大株主** (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社馬込興産	3,132	16.12
小原 博	2,263	11.65
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS	891	4.59
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	865	4.45
小原 康嗣	611	3.15
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	583	3.00
株式会社三菱東京UFJ銀行	369	1.90
小原 範子	304	1.57
OBARA従業員持株会	231	1.19
資産管理サービス 信託銀行株式会社(年金特金口)	229	1.18

(注) 1. 上記のほか、自己株式1,438千株を保有しております。  
2. 持株比率は、自己株式1,438千株を控除して計算しております。

**株主分布状況**



**株主メモ**

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日 第2四半期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	〒105-8574 東京都港区芝3-33-1 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先 お問い合わせ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉2-8-4 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-78-2031 (フリーダイヤル) (受付時間: 平日9:00~17:00) TEL: 0120-87-2031 (各種書類請求専用フリーダイヤル、 自動音声案内) ウェブサイトURL http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
公告方法	当社公告につきましては、下記ウェブサイトに掲載いたします。 http://www.obara-g.com/ 但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告を行なうことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。